

自然環境保全の推進について

【担当省庁：環境省】

1 国立公園等整備における交付金事業の充実

京都府では、「海の京都」や「森の京都」等広域観光振興による地域活性化を推進しており、国立公園等において環境保全とエコ観光を両立（＝ワイズユース）させる施設整備を行うため、**自然環境整備交付金事業の予算確保（平成30年度の予定事業費1.7億円）**をお願いしたい。

<京都府の予定事業（代表例）>

- 京都丹波高原国定公園：安全で快適な公衆トイレ整備（綾部市^{むつよりちょう}陸寄町園地）
- 山陰海岸国立公園：海外観光客に対応できるトイレの洋式化や水洗化（京丹後市^{かぶとやま}兜山野営場）

2 特定外来生物対策

現在、我が国で問題となっているヒアリの他、本府においては、近年、アルゼンチンアリやオオバナミズキンバイなどの侵入・定着が懸念されることから、その防除に努めているが、こうした対策は、本来、特定外来生物法において国の責務とされている。しかしながら、差し迫った人的、経済的及び生態系被害を回避する観点から、本府として府民や市町村等と協働し、**徹底した初期防除に当たるため、これに必要な財政的負担、技術的助言**をお願いしたい。

京都府
の担当課

環境部 自然環境保全課(075-414-4378)

■概算要求

【環境省】

▼自然環境整備交付金 自然公園等事業費111億円（29年度当初予算71億円）の一部

■京都府の現状（自然環境整備交付金事業の実施状況）

28年度	29年度	30年度（予定）
8箇所（5市町）	5箇所（5市町）	18箇所（9市町）
38,000千円（事業費）	44,072千円（事業費）	166,500千円（事業費）
17,100千円（国庫）	20,012千円（国庫）	76,675千円（国費）

■概算要求

【環境省】

▼特定外来生物防除等推進事業 5.66億円（29年度当初予算4.86億円）

本来有する移動能力を超えて人為的に海外から導入される外来生物の増加により、持ち込まれた地域の生物多様性損失の大きな要因となっている。これらの被害を防止するための防除の実施。

■本府における特定外来生物対策の状況（29府当初予算：4,500千円）

▼アルゼンチンアリ防除対策（1,500千円）

地域住民と行政機関（府、市）、学識経験者による防除協議会を設立し面的な防除を実施

▼鴨川水系ヌートリア防除対策（500千円）

鴨川に生息するヌートリアにエサやりをする府民及び観光客に、エサやり防止を啓発

▼京都府外来種データブックの作成（2,500千円）

府内で繁殖し生態系や人身被害を起こす外来種の定着度や被害状況をデータブックとしてとりまとめ、現状を把握する

▼ヒアリ侵入防止対策（予算なし）

ヒアリの国内発見を受け、ホームページでの啓発及び相談対応及び舞鶴港での防除対策を実施

▼外来生物啓発セミナーの実施（予算なし）

外来生物に対する府民の認識を高めるため、セミナーを開催

■特定外来生物による生態系に係る被害の防止に関する法律 条文（一部抜粋）

（主務大臣等による防除）

第11条 特定外来生物による生態系に係る被害が生じ、又は生じるおそれがある場合において、当該被害の発生を防止するため必要があるときは、主務大臣及び国の関係行政機関の長（以下「主務大臣等」という。）は、この章の規定により、防除を行うものとする。 ※以下省略